

## □ <肝炎ウイルス検査について>

**Q8**：肝炎ウイルス検査は、どのような人が受けるべきですか？

**A8**：現在、自分の肝炎ウイルス検査結果を知らない人全員が対象になります。感染している可能性が高く、特に検査を受けていただきたい方は、以下の如くです。

- ・平成4年（1992年）以前に輸血や大きな手術を受けたことがある方。
- ・非加熱血液凝固因子製剤を投与されたことがある方。
- ・フィブリノゲン製剤（止血剤）を投与されたことがある方。
- ・医療機関以外でピアスの穴をあけたことがある方。
- ・入れ墨をいれたことがある方。
- ・薬物乱用の既往のある方。
- ・母子感染予防ワクチンが施行されていない1985（昭和60）年以前にB型肝炎の母親から生まれた方。

**Q9**：HBV、HCV検査を受けるには、どのような方法がありますか？

**A9**：HBV、HCV検査は、保健所やほとんどの医療機関で受けることができます。特に肝炎が疑われる全身倦怠感や食欲不振、悪心・嘔吐あるいは黄疸などの症状がある場合には、早めに受診されることをお勧めします。

**Q10**：肝炎ウイルス検査時には空腹で保健所に行った方がいいですか？

**A10**：肝炎ウイルス検査は食事の影響を受けませんので、どちらでも構いません。

**Q11** : 感染後、どれくらいの期間が経てば、HBVまたはHCVに感染したことが分かりますか？

**A11** : HBVまたはHCVの感染早期では、ウイルスの抗原や抗体の量が少ないため、血液検査で検出できない場合があります（これを「ウィンドウ期」といいます）。HBV感染の場合、保健所で行われるHBs抗原検査では感染後59日経てば感染したかどうか分かります。HCV感染の場合は、保健所のスクリーニングで行われるHCV抗体が陽性となる時期は感染後3.3ヵ月といわれています。

**Q12** : 肝炎ウイルス検査で陽性の判定でした。治療を行う必要はありますか？

**A12** : B型あるいはC型肝炎ウイルスが体内に存在しても、すぐに治療が必要かどうかは、病院で精密検査（血液検査、腹部超音波検査などの低侵襲性の検査）を行う必要があります。また、患者さんの状況にもよりますが、いずれかが陽性の場合、少なくとも3～6ヵ月毎の経過観察は必要ですので、放置せず、肝臓専門医のいる病院を受診することをお勧めいたします。

**Q13** : 肝炎ウイルスワクチンはどのような人が接種すべきですか？

**A13** : HCVに対するワクチンは現在のところありません。HBVワクチンに関して、現在、わが国では、すべての方にHBVワクチンを接種する、いわゆる「ユニバーサルワクチネーション」は行われていませんので、HBVワクチンはB型慢性肝炎の母親から生まれた子供、医療職などHBV感染のリスクが高い方、パートナーがHBV感染者の方、不特定な感染リスクが高いと考えられる方などが対象になります。

## 保健所等における肝炎ウイルス検査相談マニュアル

---

発行

平成26年3月 第1版

発行者

厚生労働科学研究費補助金

難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（肝炎関係研究分野）

「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」（研究代表者 加藤真吾）

慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学教室

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35

印刷

有限会社 長谷川印刷

〒232-0017 神奈川県横浜市南区宿町2-38 TEL 045-711-5286

---

\*本マニュアルに掲載された文および図表には著作権が発生しておりますので  
利用にあたりご注意ください。

保健所等における肝炎ウイルス検査相談マニュアル